

今回の巻頭記事はインドの ムンバイ（旧ボンベイ）に駐在の浅野茂生先生の現地事情報告です。インドはアメリカとならぶ世界最大の民主主義国とされていますが、映画でも年間制作本数、映画館観客総数で世界一の映画大国とも言われています。その映画大国の映画に日本人外交官役でメジャーデビューをするかもしれない浅野先生から現在撮影中の（来年公開予定のチャンドラボースを描いた）ボリウッド映画（ボンベイはハリウッドとならぶ映画の街ですのでこう呼ばれます）の記念写真（職歴・得意分野欄の左横写真の中央の人）をいただきました。本人の弁によりますとカットされてしまうかもしれないのでまだ宣伝もできませんとのことでしたが・・・。

今回はその報告の前編です。

インド 【ムンバイ通信】浅野 茂生先生（インドムンバイ市在住）連絡先：asanos@mars.dti.ne.jp



【職歴・得意分野】

1988年 鉄鋼メーカー入社

2005年～2008年 中国広州市で現地合弁会社立ち上げに参画

2014年～ インドの現地法人に出向、現在同法人社長

得意分野と呼べるものは何もありませんが、海外駐在と鉄鋼メーカーのジェネラリストとしての経験が何かのお役に立てればと思っています。

【支部活動】

2013年 最初の実務補習で現支部長の清水先生主担当、前支部長の朝倉先生副担当、次は木野先生に御指導いただきました。（実質休止状態で申しわけありませんが...）国際部に所属。因みに中郡先生は高校の同級生で先日約30年ぶりに再会しました（笑）。

【インドの日本人と商工会事情】

インドはデリーに約5-6000人の日本人がおり、次がバンガロールの約1100人、チェンナイ（旧マドラス）の約1000人、その次が当方の住むムンバイ（旧ボンベイ）の約650人です。上記上位3都市はいずれも日系の自動車メーカーが工場を持ち、中小企業の進出も多く日本人商工会が存在し機能しています。

ムンバイは準備銀行や証券取引所があり商業中心地であることから日系は金融機関と商社が多いのですが、いわゆる製造業の中小企業は少ない地域で、インド最古の日本人会がありながら商工会はありません。自分はデリー、チェンナイの商工会に所属し、ムンバイでは日本人会の理事を務めています。

JERTO や JICA、大使館や総領事館の皆さんとのお付き合いの中で中小企業の海外進出の補助金等のお話学習が出るたびに海外駐在診断士として何かお役に立ちつつ海外駐在企業内診断士として更新ポイントにもなるような仕組みができないものだろうかと考えたりしています。

(昼間の CST 駅)



(ライトアップされた CST 駅)



C S T : 世界遺産でインド・ムンバイにあるチャトラパティ・シヴァージー・ターミナス鉄道駅

(エレファンタ石窟の三面シヴァ像近景)



(同遠景)



～牛の話～

都市部でも牛が道路で「放牧」されています。ゴミ箱や道路の分離帯に生えている草を食べたりしています。ヒンドゥー教のシヴァ神の乗り物がナンディーと言う牛なので当地では大切にされていますが、それは背中にコブのある「瘤牛」の事です。ムンバイが州都のマハラシュトラ州では牛肉は食べることはもちろん、売買することもなんと保持することまで刑事罰の対象となり、5年の懲役に加えて多額の罰金が課せられます。牛肉がまるで違法薬物のような扱いになっています。

因みに水牛は「牛」と定義されていないので使役され搾乳され肉が食べられたりします。インドは牛を神聖視する国なのに豪州や米国を抜いて世界一の牛肉（バンガロールで飼育されている肉牛とその他多数の水牛）輸出国だったりします。不思議な国です。

街中に犬も沢山います。殺生を嫌い生き物を大切にするお国柄は素晴らしいのですが、誰も虐めないのが犬の皆さんは安心してノビノビと道路やゴルフ場のバンカーで寛いだりしています。

昔はムンバイ市内でも象や蛇遣いが普通に見られたらしいのですが、どちらも禁止になってしまい今では田舎や特定の地方でしか見られなくなりました。

是非インドへお越し際にはお気軽にお声を掛けていただければ幸いです。皆様の御来訪を心よりお待ちしております！

(ムンバイの通勤途上で街に「放牧」されている牛)



(街の放牧風景、ゴミ箱が餌場) (典型的な「コブ」牛)



(インドでは牛と定義されない水牛)



(ゴルフ場のバンカーで寛ぐことお犬様 (笑))



(ムンバイ市内では見かけなくなってしまう蛇遣い、カルナカタ州の奥地にて)



11月4日は「中小企業診断士の日」。診断士の日実行委員会 堀口 英太郎先生

なぜこの日？「イイシンダン」のゴロ合わせ？そこに存在する歴史的背景を、恥ずかしながら私は今まで知りませんでした。

終戦からわずか3年のこの日、中小企業庁により「中小企業診断実施基本要領」が制定され、経営に関する専門家を活用する「中小企業診断制度」が発足しました。戦後日本の成長と発展は、中小企業と診断制度が支えてきたといっても過言ではないでしょう。この度中小企業診断士の活躍の場を広げ、経営者、各種関係機関等に対して診断士及び診断制度の理解を深めてもらうため、診断士の日を制定したことは大いに意義があるものと感じています。

診断士の日に合わせて、全国47都道府県協会がイベントを開催いたします。東京協会は、11月8日（火）、中小企業経営診断シンポジウムの会場内で併催致します。

実施内容は2つです。まず、中小企業応援川柳の投票と優秀作品の表彰です。9月1日から10月10日まで東京協会HPにて応援川柳を受け付けています。現在（9月25日）でも300通を超える応募があります。その中から選考された入賞作品を当日掲示し、来場者の投票で優秀作品を表彰いたします。

もう1つが、6支部の活動を紹介するパネルの展示です。都下に6つの支部がある“東京都ならではの特徴”を活かすことができる企画です。診断士の役割、専門性を、直接的かつ地域に根差したかたちでアピールするため、経営者向け、関係支援機関向けに分けて展示いたします。多くの方にご来場いただけますと幸いです。なお、応援川柳及び診断士の日イベント情報は以下のURLをご参照ください。

1. 中小企業応援川柳について

<http://www.t-smeca.com/senryu/>

2. 東京協会診断士の日イベント

http://www.t-smeca.com/event_info/2016/08/post-115.html

会員紹介 城北支部 大東 威司 (ohigashi@fj9.so-net.ne.jp)



「戯れ」からホンキの事業支援へ（今回は（今回も）真面目です!）」

診断士となって1年が経とうとしている^{おおひがしたかし}大東威司です。本誌にも先日掲載されましたが、私の診断士としての“対外デビュー”が、実は城北支部後援の「音楽の戯れ」コンサートでした。昨秋の新歓飲み会で『オーボエ吹き』松本恭子先生（城北支部）と音楽談義で意気投合したのがきっかけで、その後、百戦錬磨の先輩診断士に凄まれつつ…ではなかった、優しく囲まれつつ、練習に参加させていただきました。

コンサート後の反省会・検討会等を重ねていく中で、ちょっとしたアイデアから新たな展開が生まれました。名付けて、「診断士音楽隊による事業支援」。具体的には2つのプロジェクトが進められています。

一つは、9月18・19日に洋菓子・ガトーマスダ（板橋区高島平）で行った創業記念のサロンコンサートです。“診断士音楽隊”板橋区担当の佐藤卓先生（城北支部）がまとめ役となって、クラシック好きの社長の熱い想いをプログラムに具現化し、満員のお客様に美味しいお菓子と共に音楽を楽しんでいただきました。もちろん診断士として、店舗運営への助言等の支援も欠かさず行っています。早速、次回へのオファーもいただきました。

もう一つは、12月3日のルーテル小石川教会（文京区千石）でのチャリティコンサートです。バッハ好きの諸葉子先生（城北支部）と牧師さんが意気投合して、バッハもやるけどジングルベルもやらなきゃ……などと絶賛議論発散中です(?)。どら焼き屋さんや小間物屋さんも巻き込んで、会場で即売する企画もあります。私たちは音楽を届け、協賛事業者様にはアピールのチャンスとして販路開拓・売上向上にもつなげてもらおうという、win-winの機会とすることを狙っています。

私たちはプロの音楽家の技量には及びませんが、“プロのコンサル”のワザを発揮して、事業者様の想いを

皆さんに伝え、感動を分かち合う活動につなげていく所存です。今後の展開に是非ご注目下さい！

【本誌に関する皆さまのご意見、ご要望をお待ちしております】

①皆さまがお持ちの“ネタ”を提供してください

- ・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。⇒広報部員が潜入します
- ・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します
- ・診断士としてのノウハウを紹介したいなど ⇒特集記事化します。

②皆さまが知りたいことを教えて下さい

- ・企業内診断士の活動状況を知りたい。
 - ・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。
- ⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

③読者としての（批判も含め）感想をお聞かせください

- ・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

④本誌編集スタッフ募集中

- ・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」でも構いません。
- 問い合わせ先 城北支部広報部： johoku.kouhou@gmail.comまで よろしくお願い致します。

JOUHOKU SHINDAN 誌

2016年10月4日発行

発行者：城北支部長 清水一都

編集者：城北支部 広報部